

新年のごあいさつ



湖南市議会議長
松原 栄樹

誠

あけましておめでとうございます。
平素は湖南市議会に格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本をはじめ世界では、地震などの自然災害、紛争やテロなど、いろいろなことが起こりました。湖南市では、大きな災害もなく、おかげさまで輝かしい新春を迎えることができました。まずは感謝感謝です。

今、日本社会は急速に少子高齢化が進んでいます。また、SNS、IoTなどに代表されるグローバルな情報通信時代がますます進んでいます。あまりに利便性が優先されすぎて、人間関係が希薄であっても当然と考える社会に向かっていると感じるのは私だけでしょうか。

そのような時代だからこそ、人の絆を中心とした人間社会の再構築が望まれます。生活の足元である地域が信頼関係のなかで、共に助け合う心を持ち、力を合わせて生活していかなければなりません。そのためには、昔から尊ばれてきた、信・義・誠を重要とする社会を構築することが大事だと私は思います。

個々に自分自身ができること、それは「誠」をつくすことだと考えます。人間に心がある限り、「誠」をもってすれば、必ず相手、社会に通ずるとの一念をもって、これからも日々の活動に邁進していきたいと思えます。

結びに、今年一年が市民の皆様にとりまして幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。

楽

湖南市長
谷畑 英吾



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしき年明けをお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は市政の様々な面でご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

昨年は国道1号バイパスが菩提寺から栗東市小野まで延伸し、名神高速栗東湖南インターチェンジが供用を開始しました。新しい石部小学校校舎に子どもの声が響き、市民産業交流促進施設『ここびあ』が新しい農業と食の安全のあり方を提案する施設として開業しました。

平成29年は丁酉ひのととりの年です。丁は「発達の最後」、酉は「熟する」の意で、新しい勢いが生まれることを表しています。新しい活動を創り出し、育ててきたこれまでの取り組みが形となる一方、新しい動きが生じてくるということです。

今年の湖南市は、三雲駅橋上化が姿を見せ、甲西中学校の耐震改築も進むなか、まちづくり協議会の取り組みも地域防災と地域福祉を主眼に置く次のステージに移行します。庁舎耐震化や子育て世代を支える負担のありかたの議論も必要です。また、『ここびあ』を拠点に、高齢者、女性、障がい者、若者などが新たに農に参入していただく年となります。

市民の皆様が「楽」しく気「楽」に新しいまちづくりに取り組む年であってほしいと願っています。